

中山勝歌碑

(なかやままさるかひ)



【所在】

鷹栖町南1条3丁目
(緑地公園内)

【歌碑建立】

昭和55年

開拓功労者・照重の子孫 中山勝

中山勝は明治39年3月24日、町開拓功労者である中山照重の長男・国治の次男として生れる。幼少のころより虚弱な体質で、少年時代から一人読書にふけていたという。大正13年4月、東京へ出て印刷所の文選工見習をしながら、大川周明や北一輝などの思想にふれ、英語学校に学び、専門学校検定試験に合格、神宮皇学館に入学。このころより歌の道に入り、昭和13年に朝鮮平壤神社主典、同20年に陸軍の現地召集を受けて参戦。終戦後、捕虜となり、同21年に復員し、旭川商業高校教諭を勤め、歌誌「五更」「香蘭」「あさひね」「鶏花苑」「作風」などにかかわり、昭和29年8月、歌誌「かぎろひ」を創刊、かぎろひ詩社を主宰した。歌集に「環状路」「野馬」「玄穹」「逍遙神」「天の容花」があり、歌碑建立後、「離れ雲」「秋津羽」と第七歌集まで出版した。

昭和62年に洞爺温泉病院に入院、平成元年に薬効なく8月19日、84歳を一期として逝去された。

この碑は昭和55年8月31日に関係者80数名出席して除幕され、先生の記念講演が行われた喜びの一日であった。